環境配慮行動普及促進事業費補助金及び二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）推進事業）
審査委員の意見を踏まえた総評
（令和８年６月 19 日～令和８年７月１日　二次公募）

【全体】
・「くらしの 10 年ロードマップ」（令和６年２月策定。以下、「ロードマップ」という。）に則して、国民（消費者・働き手）にとっての行動制約要因（ボトルネック）を課題として認識し、そのボトルネックを構造的に解消するための仕掛け（取組・対策）について、具体的な検討がなされ、明確に表現されている等、本補助金の制度の趣旨に合致している申請を高く評価した。
・事業実施により、業界の内外に対し、広くボトルネックの構造的な解消に向けた効果を与え得ると考えられる申請を高く評価した。
・本補助金を活用した脱炭素に資する製品・サービス・行動等のプロモーションについては、当該製品・サービス・行動等の認知度の向上を通じて、上述のような、業界内外に対して広くボトルネック解消の効果を与えることを目的とする必要があるところ、この観点で、本補助金の用途が明確化された上で、事業実施者が自社の製品・サービスの販路促進との棲み分けが明確になされていることが必要である点に留意した。
・また、本補助金を事業の運営に当たって継続的に発生する経費に対して充てる場合は、翌年度以降補助金に代わる財源を補填する手段が明確になっている等、補助事業終了後も事業が継続、発展していくと見込めることが必要である点に留意した。
・さらに、事業効果の更なる増大を目指し、国として支援する必要性が高い CO2 削減効果の高い取組や行動変容・ライフスタイル転換の波及効果の大きい取組に発展していくことが見込める取組である点に留意した。

上記の各項目を踏まえ審査を行った結果、ボトルネックの構造的な解消に資する具体的な仕掛け（対策・取組）が認められる事業として、「ロードマップ」で位置づけしている住の分野において、事業の採択となった。
・本事業をきっかけに更なる消費者のライフスタイル変容や脱炭素に貢献する行動変容の拡張、発展に繋がる取組を期待する。

【住】
・「ロードマップ」に記載している、「エコグッズを選ぶ意義・メリットを国民・消費者に伝える機会の創出」について、燃料機器への依存が大きい寒冷地特有の特徴に着目し、事業者による主体的な工務店の育成・支援を含め、電化による省エネ効果を発現させることにより脱炭素を促進する事業内容の申請を評価した。

以上